

# 学 習 日 誌

9月15日 (金)	講 師	社会福祉法人 悠々会理事長 陶山慎治 先生
出席者数	73名	記 録 者
		8年11班 薬丸正美
講 座 名	社会的課題講座2 アフターコロナ “地域支え合い” 新たな支え合いを考える	
プログラム担当者	社会的課題講座リーダー 佐々木邦彦さん	
時 間・場 所	13:30 ~ 15:30 、第一集会室 にて	

## 【学習内容】

- 講座リーダーから陶山先生の紹介。2002年4月、町田の鶴川地区で特別養護老人ホーム悠々園を開き、介護養護を中心とした高齢者の介護福祉事業を展開しています。2017年4月に町田の忠生地区で高齢者、障害者、子育て支援と医療と連携して行う「クラブサークル町田」を開設。町田市の福祉、地域づくりに関する多くの要職についているほか、様々な事業を展開しております。
- 表題の「地域支え合い」の一環として国は、災害時に地方自治体は避難保護要支援者を一覧表にしてその中から優先順位を定めて一人一人の個別避難計画を来年末までに作ることを努力義務とした。
- 本日の話は平常時をイメージした「地域の支え」が主なものですが、災害時の支えも重要なのではないかと。ハザードマップ上に一人で住んでいる人や、要介護の母と障害を持つ子供と二人で住んでいる人とか眼の不自由な人とかの「個別避難計画」を作り始めている。
- 社会保険の第一条には、「**尊厳を大切に、自立した日常生活を送る**」と記されている。  
**尊厳とは**、・これができないなら生きていく意味がない ・こんなことをするくらいなら生きていたくない ・これだけはゆずれない  
**自立した日常生活とは**、・人に頼らず生きる事ではなく、生き方を自分で選ぶ、生き方を自分で決める ・出来ないことはお願いする、出来る事はやってあげる
- 振り返って、幸せだったな、と思える人生とは ・自分の能力を生かして生きる事が出来た ・生き方を自分で選んで、決めて来た ・最後の日まで期待される役割があった ・誰かに期待される人生を送ること
- 共に生きるまち“共生社会の必要性” ・子供が減ってきて、高齢者が増えている中で今までのように医療保険や介護保険が自由に使えなくなってくる時代なので、社会保障に頼れないから、地域や自分自身が何とかしなければならない。・悠々会は社会福祉法人なので「地域公益活動」を推進すべきと考える。 ・資産価値を下げない「株式会社〇〇村」の考え方（誰もが住んでみたくなる町づくり） ・自分の幸せのためにやる
- 薬飲み放題、医療かかり放題、介護かかり放題というので、長寿世界一というのをもし辞めたら、それに代わる幸せは何かを徹底して議論しなければならない時代に来ていると思う。
- 自分たちは年金を給料から50%も引かれているのに年金が増えないのが確実に判っている世代と年金が増えてこの時代を作ってきて命を終えようとしている世代の壁の線を引かないようにすることを今必死に考えている。
- 若い世代の給料の60%に近く引かれている年金が、今、何に使われているかということ、高齢者の介護、医療に使われているのに、高齢者のボランティア支援に参加してよと言ってもなかなか難しい状況です。私たちが、この国の未来に向けての幸せとは何かを徹底的に議論すべき時が来ているのではないかと。
- 健康とは、体、心、社会的と三つが揃って初めて健康と言われているが、コロナ禍を振り返ると、体の健康のみを考えて、家族にも会えない、友達にも会えない、葬儀も出来ない等、心と社会的健康がおろそかになっていたことを反省している。

【感想】陶山先生の今の地域づくりの活動と将来への思いをお聞きし、久しぶりに心が明るくなる思いを感じました。また、社会保障に関する今後の課題等も大変参考になりました。

